

【第3回目までの主な意見】

- ・西地区は公共施設が集約されている。機能集約が課題。
- ・施設単体ごとに考えるのではなく、複数の施設を一体的に見て、群として考え、活用すべき。
- ・施設の縦割り(特定の利用者)から、施設連携を通じて、複合施設(多世代利用)に向けて考えるべき。
- ・公民の役割分担を整理すべき。公ですべきサービスは施設を通じて、行うべき。



【第4回の議論テーマ】

○豊能町における施設規模の適正化・施設の有効活用について

(施設規模の適正化について)

- ・策定中の「豊能町総合まちづくり計画」では、令和13年(2031年)度には、想定人口15,000人と設定。その中で公民の役割分担を通じた公共施設が果たす役割や機能についてどう考えていくのか。併せて、利用者の意向等についてどのように考えるのか。

(施設の有効活用について)

- ・施設の機能集約、連携及び複合化などを考えるときに、住民にとって利便性が向上する施設はどのようなものか。また、集約した施設における住民対応をどのように考えるのか。
- ・4小学校の施設活用をどう考えていくのか。

## 大前提として

◎公共施設の管理で目指すもの ⇒ **公共サービスの持続的な提供**  
(持続可能で安全・安心な公共施設を通じた行政サービスの提供)

そのためには

**適切な公共施設の維持**

何をすべきか

- (1) 財政負担の軽減・・・①コストを抑制し、財源確保に努める  
②建物の総量を抑制する（人口規模に見合った施設規模）
- (2) 安全性の確保と計画的な管理・・・①施設を長く使い続ける取組みを推進  
②計画的な管理を行う体制を構築



従来と同等の公共サービスを維持しながら、建物の総量規制（整備や維持管理に係るコストの抑制）を実現するためには

①複合化、②統合、③連携・多目的利用、④転用 などが考えられる

## ①複合化

複数の異なる機能（サービス）を一つの建物に集約する。

### 【メリット】

○施設毎に建物を整備して行政サービスを提供する場合と比較すると

- ①トイレや階段など「共用スペース」や電気や給水などの「機械設備」を共用することで、建物の整備や大規模改修に係る工事費の縮減
- ②清掃や点検、利用者受付など日常的な施設管理の効率化
- ③利用者サービスの向上(利便性向上、利用者相互の交流など)

## ②統合

同じサービスを提供する複数の施設を再編して、施設の数減らす。

### 【メリット】

○現在の施設をそのまま建て替える場合と比較すると

- ①利用状況の変化に合わせた、施設の規模や配置の適正化
- ②施設規模の削減による、建物の整備や大規模改修に係る工事費の削減
- ③施設数の削減による、日常的な施設管理に係るコストの縮減

### ③連携・多目的利用

異なる施設で一つのスペース（機能）を連携・共有し、それぞれのサービスを時間帯や曜日をずらして提供する。

#### 【メリット】

○施設毎に建物を整備して行政サービスを提供する場合と比較すると

- ①スペースの共有により施設規模が削減され、建物の整備や大規模改修に係る工事費の縮減
- ②時間帯や曜日で提供するサービスを変えることにより、共有したスペースの有効活用（稼働率の向上）

### ④転用

新たな建物を整備せず、既存の建物を有効活用してサービスを提供する。

#### 【メリット】

○建て替えや新設に際し、新しい建物を整備する場合と比較すると、建物の総量を増やさず、投資を抑えながらサービスを継続又は拡充できる。